

「看護医療基礎」

6月9日大隈病院院長齋田宏先生のお話を聞いて



●今回齋田先生の講義を受けて今の日本の少子高齢化の現状について学びました。今回の講義を受けるまで深く少子高齢化について考えたことがありませんでした。しかし、今回グループで意見を出し合ったことで少子高齢化についてしっかりと考えることができました。現在の日本の問題は大きくわけて2つです。1つ目は出生率の減少です。この問題に対してグループでは出生率をあげるためにはどうしたら良いのかを考えました。ただ1人あたりの子どもの産む数を増やせばいいと考えても、そこには大きな問題があると思います。例えば金銭面です。子ども一人あたりにかかるお金は少ないとは決して言えません。出生率をあげるために産むだけではなく子どもを育てなければ

いけません。だから、簡単には出生率をあげられないとい考えました。そこで考えたのが国が制度を作るということです。例えば、3人目の子どもが産まれたら車をプレゼントや、ベビー用品のプレゼントなどです。何か少しでも家計の助けになる特典があるといいと考えました。

2つ目は、「孤独」、「孤立」が増えているという問題です。この問題について自分たちができることは何か考えた時に思ったのは身近な存在から関わることだと考えました。例えば、近所の高齢者の方に「おはようございます」や「行ってきます」などの一言だけでもあいさつをするだけでも全然違うと思います。毎日挨拶をすることで今日も元気そうだなとわかると思います。だから1番自分たちが今できるちょっとしたことは「挨拶」だと考えました。今回の講義を受けて家に帰り、両親に「最期はどこで迎えたいか」と聞くと2人とも家がいいと言いました。やはり、家で最期を迎えたいと考えている人は多いのだと改めて思いました。しかし、現状は家で最期を迎えることができる人はそんなに多くはありません。この問題についてももっと詳しく考えていきたいと思いました。



●今日は、大隈病院院長の齋田先生にお話を聞かせていただきました。講義のテーマは、「超高齢化社会を

迎え大きく変わる地域医療～人生の最期まで住み慣れたお家で自分らしく暮らしていくために～」でした。私はいま看取り班に入り、これからの高齢化社会について考え、高齢者孤立対策をテーマとして探求応用の活動をしています。調べ学習や本や資料を読んだりして、ある程度は日本の高齢化社会の現状や孤立対策について把握していたつもりでした。しかし、齋田先生のお話をお聞きして初めて知ったことや初めて耳にする言葉がたくさんありすぎて、高齢化社会や孤立対策に対する知識のなさを改めて実感しました。齋田先生のお話の中でも特に私が着目したのが、最期まで自分らしく暮らすために家族で「人生会議」をして、普段から自分の考えを伝えておくことが大事だと言うことです。本人の意思決定を尊重することや、住まいを重視した地域医療を提供することは患者さんが最期まで自分らしく生きるためにとても重要なことだと思いました。お話が終わった後にはグループワークで、超高齢化社会になるってどういうことなのか、これから何が生じ、我々は何をするべきなのかを考えました。私のグループは、人口の減少、介護、孤立、経済、国の問題、災害時の問題と、大きく分けて六つのテーマが出てきました。分析としては、結局は人口の減少が悪循環を生み出していることがわかりました。また、それぞれの問題の解決策もみんなで話し合っ最善なものを見つけることができました。その話し合いの中で私たちがすぐに実施できるのは孤立防止対策だと思いました。対策案は、普段から「おはようございます」「こんにちは」など、少しの挨拶でもいいから近所の人との関わりをもっと増やしていくことです。これはまさにいま、探求応用の活動で使える解決案だと思ったのでみんなで今回の話し合いの内容を共有して、高齢者の孤立対策のために私たちができることをもっと広めていきたいと思いました。

